

トルコギキョウのロゼット苗の低温処理による秋冬出し栽培におけるは種適期

足立 陽子・佐々木 厚・遠藤 柳子

(宮城県園芸試験場)

Suitable Seedtime of *Eustoma grandiflorum* for Autumn and Winter Shipment
by Using Rosette Seedlings Treated with Low Temperature

Yoko ADACHI, Atsushi SASAKI and Ryuko ENDO

(Miyagi Prefecture Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

トルコギキョウの秋冬出し栽培は育苗が夏の高温期となるため株のロゼット化や早期抽だいが生産上の問題となっている。ロゼット化を回避するため、暖地では冷房育苗やは種直後に高温処理をして生理的にロゼット化させ、その後低温処理によってロゼット打破する方法等が行われている。

そこで、宮城県におけるロゼット苗の低温処理が定植後のロゼット化及び切り花品質に与える影響と秋冬期出荷のためのは種期について検討した。

2 試験方法

(1) 試験1 ロゼット苗の低温処理が定植後のロゼット化及び切り花品質に与える影響

品種は、早生品種「あずまの粧」と「ピーターブルーラインNo.2」、中生品種「あすかの粧」、晩生品種「つくしの雪」を供試し、試験区として、ロゼット苗の低温処理区と無処理区の2区を設けた。全品種とも各区24株3反復で試験を行った。

ロゼット苗の低温処理区は1998年5月1日には種した。288穴セルトレイに1穴2粒ずつ蒔き、用土はメトロミックス360を用いた。は種直後から最低地温25℃で40日間高温処理した後、10±1℃の照明(1000lux)付き低温庫で30日間低温処理し、4日間順化した。なお、高温処理は電熱線を用いて自作したプールで行った。また、低温室の照明付き棚も自作した。

定植は1998年7月13日に床幅1m、株間12cm×12cmで行い、a当たりN-1.5kg、P₂O₅-1.5kg、K₂O-1.5kgを全量基肥で施用した。定植後は最低気温15℃以上となるように管理し、電照は1998年10月19日から、22:00から2:00までの暗期中断を行った。

無処理区は1998年5月15日には種した。は種後はタフベルで遮光した雨よけの施設で定植時まで育苗した。定植及び定植後の管理は低温処理区に準ずる。

(2) 試験2 は種時期の検討

品種は、早生品種「あずまの粧」「ピーターブルーラインNo.2」中生品種「あすかの粧」、晩生品種「つくしの雪」を供試し、試験区は、5月1日は種区、5月15日は種区、

6月1日は種区の3区を設けた(表1)。全品種とも各区24株3反復で試験を行った。

表1 試験2における試験区の構成

区	高温処理	低温処理	順化	定植
5月1日は種	5/1~6/10	6/10~7/10	7/10~7/13	7/13
5月15日は種	5/15~6/25	6/25~7/24	7/24~7/28	7/28
6月1日は種	6/1~7/10	7/10~8/10	8/10~8/14	8/14

耕種概要は試験1の処理区に準ずる。

3 試験結果及び考察

(1) 試験1

処理区は無処理区より14日早くは種したが、定植時の葉齢、葉径に違いは見られなかった(表2)。切り花品質及

表2 定植時の葉径と葉齢 (1998年)

品 種	無処理		処 理	
	葉径*(cm)	葉齢(対)	葉径*(cm)	葉齢(対)
あずまの粧	2.9	2.0	2.8	2.1
ピーターブルーラインNo.2	2.6	2.1	2.7	2.3
あすかの粧	2.5	2.1	2.2	2.1
つくしの雪	2.6	2.1	2.1	2.0

*最大葉径

び株当たり商品花本数は特に「ピーターブルーラインNo.2」で著しく向上し、無処理の切り花長59cmに対し、処理区は73cm、切り花重30gに対して35g、花蕾数4.7輪に対して6.0輪、茎径4.1mmに対して4.4mmであった(表3)。

他の品種の切り花品質及び商品花本数の向上はわずかであった。

定植後のロゼット化は無処理区でのみ見られ、特に「ピーターブルーラインNo.2」では32%と高かったが、処理区では供試したいずれの品種においても発生しなかった(表3)。

開花始期は、「ピーターブルーラインNo.2」では処理区の方が早かったが、その他の品種では無処理区の方が早かった。これは「ピーターブルーラインNo.2」の無処理区のロゼット率が高かったためと考えられる。

(2) 試験2

早生品種「あずまの粧」と「ピーターブルーラインNo.2」、

表3 ロゼット苗の低温処理が開花始期及び切り花品質に与える影響 (1998年)

区	ロゼット率 (%)	開花始期 ^x (月/日)	切り花品質 ^y				株当たり ^z
			切花長 (cm)	切花重 (g)	花蕾数 (輪)	茎径 (mm)	商品花本数 (本)
あずまの粧							
処 理	0	10/26	80	37	5.8	4.4	0.9
無処理	6	10/18	77	38	5.7	4.3	0.8
ピーターブルーライン ²							
処 理	0	10/11	73	35	6.0	4.4	0.8
無処理	32	10/15	59	30	4.7	4.1	0.2
あすかの粧							
処 理	0	10/22	78	43	6.5	4.5	0.9
無処理	3	10/ 5	72	34	6.2	4.2	0.7
つくしの雪							
処 理	0	11/ 4	78	58	6.3	5.9	0.9
無処理	4	10/23	75	54	6.5	5.4	0.9

注. ロゼット率は1998年9月16日調査。

X: 11月30日までに採花した中で最初の10%が咲いた日。

Y: 数値は11月30日までに採花したものの平均値。

Z: 定植した全株数に対する11月30日までの切花長60cm以上の花の本数。

表4 は種日の違いが開花期及び切り花品質に与える影響 (1998年)

区	開花期 ¹		切り花品質 ²				年内採花率(%)			
	始期	盛期	切花長 (cm)	切花重 (g)	花蕾数 (輪)	茎径 (mm)	10月	11月	12月	未開花
あずまの粧										
5/1は種	10/26	11/18	80	37	6.0	4.4	16	67	13	4
5/15は種	11/12	12/5	80	49	6.0	5.5	4	25	27	44
6/1は種	12/10	12/15	72	48	6.0	5.0	0	0	20	80
ピーターブルーライン ²										
5/1は種	10/11	10/19	73	35	6.0	4.4	84	13	1	2
5/15は種	10/27	11/8	74	39	5.7	4.7	17	82	1	0
6/1は種	11/23	12/3	67	42	4.8	4.8	0	27	68	5
あすかの粧										
5/1は種	10/24	10/29	78	49	6.5	5.0	44	48	5	3
5/15は種	11/1	11/11	74	42	5.3	4.9	13	78	8	1
6/1は種	11/30	12/8	78	57	6.5	6.0	0	18	54	28
つくしの雪										
5/1は種	11/7	11/24	79	59	7.0	6.0	2	69	19	10
5/15は種	11/27	12/12	75	66	6.6	6.1	1	10	53	36
6/1は種	-	-	-	-	-	-	0	0	0	100

注. X: 始期, 12月24日までの全採花本数のうち10%が開花した日。

盛期, 12月24日までの全採花本数のうち50%が開花した日。

Y: 12月24日までに採花したものの平均値。

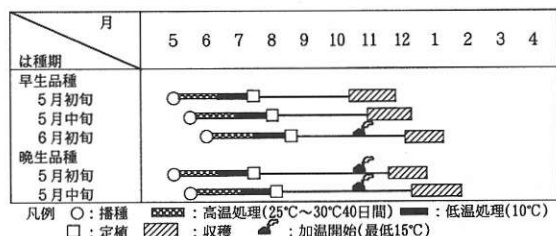


図1 ロゼット苗の低温処理による秋冬出し作型

中生品種「あすかの粧」は5月1日は種で10月から開花し、5月15日は種で10月下旬から、6月1日は種で12月から開花した。晩生品種「つくしの雪」は5月1日、15日は種で11月から開花し、6月1日は種では年内に開花しなかった。は種日の違いによる切り花品質の差は判然とせず、いずれも良品の切り花が得られた(表4)。

秋田県では中生及び中晩生品種を5月中旬には種して11月頃に開花していることから¹⁾、寒冷地においては、5月中旬位までには種すれば秋冬に収穫できると思われる。

ロゼット苗の低温処理法の問題点は、設備が必要であることであるが、高温処理用プールと低温室の照明付き棚は自作可能である。

4 ま と め

ロゼット苗の低温処理によって供試したいずれの品種においても定植後のロゼット化は発生しなかった。ロゼット化軽減及び品質向上効果は、品種「ピーターブルーライン No.2」で特に高かった。

宮城県における秋冬期出荷のための播種期をまとめると図1のようになる。

引 用 文 献

- 1) 柴田浩, 齋藤洋. 1997. トルコギキョウの低温処理苗利用による11月~12月出し栽培. 東北農業研究 50: 229-230.